

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化]	
<p><b>【概評】</b></p> <p>今年は大問 3 題のうち, [Ⅰ] では原始・古代の史跡と古代の地方政治, [Ⅱ] では江戸時代後期～幕末期の外交史, [Ⅲ] では昭和戦前期の政治史が扱われた。原始からの出題が多く見られた一方で中世からの出題がなく, また戦後史の出題もなかった。</p> <p>特に [Ⅰ] (1)には判断に細かい知識を必要とする問題や, [Ⅱ] には判断に迷うような四択正誤問題もあったが, 全体を通して, おおむね標準レベルであった。語句記述問題では漢字表記を誤りやすいものも見られ, 問題演習を含めた日頃の学習の成果が如実に反映されたと見えるだろう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
[Ⅰ]	原始・古代の史跡, 古代の地方政治	(1)では主に原始・古代の史跡について, (2)では「尾張国郡司百姓等解」の史料を用いて主に古代の地方政治について問われた。カ. この問われ方で難波津を導くのは難しい。a. やや細かいが, 同じ青森県の砂沢遺跡が語群にないため解答しやすい。c. 9の荒神谷遺跡と迷うか。ウの問題と合わせて, 出土品の種類・数で二つの遺跡の区別を付けておく必要があった。g. 難。細かい知識が要求された。h. 1は義倉, 3は賃租, 4は租について説明した文である。	標準
[Ⅱ]	江戸時代後期～幕末期の外交史	江戸時代後期～幕末期の3つの史料を用いて, 主に欧米諸国との外交関係について問われた。イ. ロシア軍艦の樺太・択捉島攻撃はやや細かいが, その他3つの出来事の順番がわかれば解答できる。オ. やや難。1・4は教科書に記述はあるものの細かい内容である。キ. 3は捕鯨船が異国船打払令の対象とならなかったわけではないため誤り。ス. 難。2のアメリカによるハワイ併合は1898年のことで, 時期が合わない。	標準

設問別講評			
〔Ⅲ〕	昭和戦前期の政治史	1930年代の軍部と政治の関係を中心に、標準的な知識を問う出題であった。b.「琢」の漢字に注意。ア. 三月事件とイ. 十月事件の区別はやや細かいが、リード文中に「同年」とあることに気付くことができれば順番に入れることで解答可能。オ. 19の衆議院と迷ったかもしれないが、天皇機関説事件は貴族院で問題化し、美濃部達吉が貴族院議員を辞職したことを想起したい。ク. やや細かい内容。23の国防を選ばないように注意したい。	標準

合格のための学習法
合格のための学習法としては、教科書本文だけでなく、脚注・コラム、掲載されている地図・グラフ・表・写真とその説明文の精読も必要である。また、過去問演習も不可欠で、その際は語群に示されている歴史用語についても、その都度、用語集などで確認をして知識を深めておきたい。また、史料問題の対策としては、過去問を使って演習を重ね、出題パターンを把握して慣れておく必要がある。歴史用語の正確な理解と確実な表記を心がけ、日頃より一問一答集なども活用して研鑽を積んでおきたい。